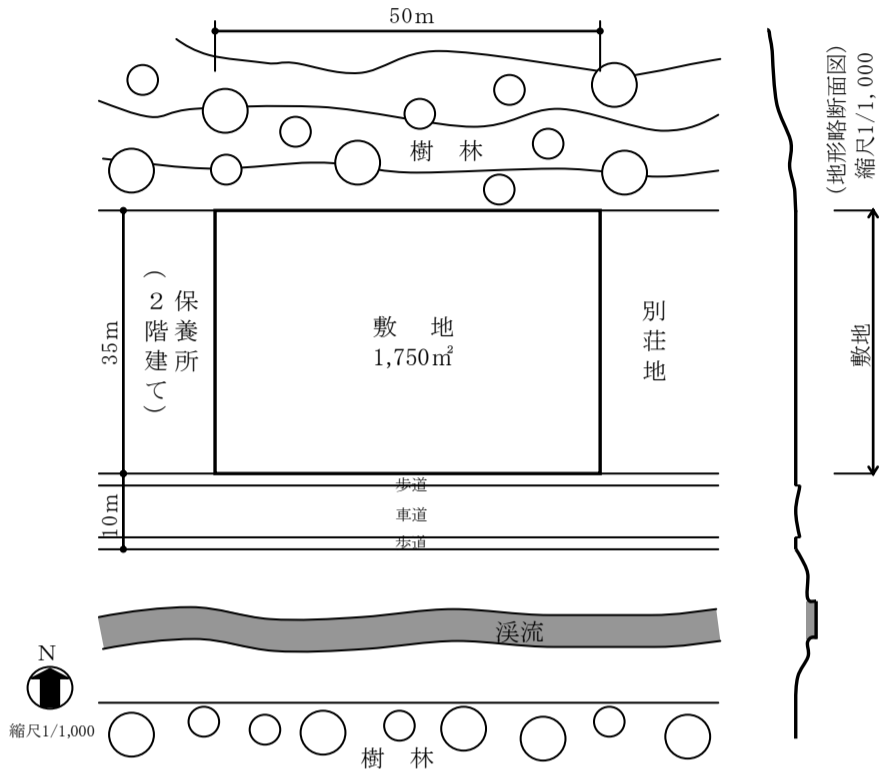


I. 設計条件

この課題は、山麓の景勝地において、ある私立大学のセミナーハウスを計画するものである。本施設は、宿泊機能(45人収容)を併せもち、集中セミナー、クラブ・サークルの合宿等の課外活動に利用できるものとし、学生及び教職員が交流できる場となるように計画する。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所あたり6mまでできるものとする。
- 敷地は、用途地域の指定のない区域にあり、建ぺい率の限度は60%、容積率の限度は200%である。なお、景観保全のため、主要な屋根は、前面道路側(南側)及び樹林側(北側)に下る勾配屋根とし、陸屋根とはしない。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。
- 溪流の氾濫、地下水及び積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



2. 建築物

- 構造、階数等
 構造種別は自由とし、地上2階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
 床面積の合計は、1,600㎡以上、2,000㎡以下とする。
 この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室
 下表の室は、すべて計画する。

部門	室名	特記事項	床面積
セミナー部門	セミナー室A	・2室に分割して、それぞれ個別に使用することができるようにする。	約100㎡
	セミナー室B	・2室に分割して、それぞれ個別に使用することができるようにする。	約50㎡
	セミナー室C	・2室計画する。	1室当たり約20㎡
	図書資料室		約60㎡
	教員控室		適宜
宿泊部門	宿泊室A	・洋室3人部屋を8室計画する。 ・トイレ、洗面台付きとする。	1室当たり約20㎡
	宿泊室B	・和室8人部屋を2室計画する。 ・トイレ、洗面台付きとする。	1室当たり約50㎡
	宿泊室C (教職員用)	・洋室2人部屋を2室計画する。 ・バス、トイレ、洗面台付きとする。	1室当たり約20㎡
	宿泊室D (車いす使用者用)	・洋室1人部屋を1室計画する。 ・バス、トイレ、洗面台付きとする。	約30㎡
	リネン室		適宜
管理・サービス部門	食堂	・50人程度が利用できるようにする。 ・食事以外のとき(夜間)は、談話等にも利用する。 ・眺望に配慮し、明るく開放的な空間とする。 ・厨房、テーブル、いす等を設ける。	適宜
	大浴室	・脱衣室を設ける。	約50㎡
	浴室	・脱衣室を設ける。	約20㎡
	洗濯・乾燥室	・宿泊利用者等が利用する。	
	管理事務室	・3人分の事務スペースを確保する。 ・受付カウンターを設ける。	適宜
	従業員控室	・男性用、女性用として、それぞれ各1室設ける。	
	管理人室	・2DKで浴室、便所を設ける。	
その他	ラウンジ	・セミナーの休憩時等に利用できるスペースとし、テーブル、いす、自動販売機等を設ける。 ・眺望に配慮し、明るく開放的な空間とする。	約80㎡
	エントランスホール	・風除室を設ける。	
	設備スペース	・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。	適宜

3. その他の施設等

- バーベキュー等のできる野外パティースペース(100㎡以上)を地上に設ける。
- 駐車場は、地上に平面駐車とし、車いす使用者用として2台分、サービス用として2台分を設ける。また、利用者用及び従業員用の駐車場については、近隣の駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- (1)及び(2)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物はバリアフリー、セキュリティ等に配慮する。
 - セミナー部門、宿泊部門及び管理・サービス部門等を適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
 - 敷地の周辺環境に配慮するとともに、北側と南側に広がる良好な景観を、眺望として積極的に取り込んだ計画とする。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
 - 耐震性に配慮し、必要に応じて、耐力壁等を設ける。
 - 部材の断面寸法を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。
 - エレベーターを適切に設ける。
 - 景観保全のため、主要な屋根を勾配屋根とすることから、2階の屋上に設備スペースは計画しないものとする。

II. 要求図書

答案用紙I及び答案用紙IIの定められた枠内(寸法線は枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。(※答案用紙Iは、A2サイズの5mm方眼用紙)

1. 要求図面(答案用紙Iに記入)

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図兼配置図 1/200	① 1階平面図兼配置図及び2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等(宿泊室A~Dの表示は、チ〜ルによる。) ハ. 要求室の床面積 ニ. 採用した構造種別、架構形式及びスパン割りに応じて必要となる構造要素(必要により、凡例の空欄に名称・記号を記入し、図示する。) ホ. 設備シャフト〔パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)]の位置 ヘ. 設備計画に応じた設備スペース ト. 断面図の切断位置 チ. 宿泊室Aの室名(A1、A2~A8と表示する。) リ. 宿泊室Bの室名(B1、B2と表示する。) ヌ. 宿泊室Cの室名(C1、C2と表示する。) ル. 宿泊室Dの室名(Dと表示する。) ヲ. 代表的な宿泊室A、宿泊室B、宿泊室C及び宿泊室Dの室内プラン
(2) 2階平面図 1/200	② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 野外パティースペース ハ. 駐車場(台数及び出入口を明示する。) ニ. 通路・植栽等 ③ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離及び経路 ロ. 1階の屋根、ひさし等となる部分
(3) 断面図 1/200	① 切断位置は、南北方向とし、建築物の全体の立体構成及び屋根形状がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。
(4) 2階梁伏図 1/200	① 2階からの見下げ図とし、主要な柱、大梁、小梁及びスラブは構造部材表の符号を明示する。 ② 構造部材表に主要な柱(C1)、大梁(G1)、小梁(B1)及びスラブ(S1)の断面寸法を記入し、主要な部材が複数となる場合は空欄に符号・部材・断面寸法を追加記入する。

2. 面積表(答案用紙Iに記入)

地上1、2階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。(※算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)

3. 計画の要点等(答案用紙IIに記入)

- 建築計画について、次の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 野外パティースペースについて、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
 - 食堂について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
 - 大浴室について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
 - ラウンジについて、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
- 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由
 - 建築物の耐震性について工夫したこと
- 設備計画について、次の①~④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した空調方式と採用した理由及び設備計画において工夫したこと
 - 建築物に採用した給湯設備の熱源機と採用した理由
 - 設備スペースについて、その位置とした理由及び維持管理又は景観に配慮する観点から工夫したこと
 - セミナー室Aの照明計画について工夫したこと

2階平面図	2階梁伏図
1階平面図兼配置図	断面図
	面積表 凡例 構造部材表

答案用紙I 図面レイアウト